【卒業生】2023 年度外部評価　改善案

初年次教育課程

文責　水野真由美

記入年月日　2023 年 9 月 13 日

コミュニケーションの必要性を感じたとあげられている。初年次としては、3 学科の必修である「学修基礎」の内容を検討することで、改善可能と考えている。オムニバス形式での授業であるため、学生がそれぞれの授業の関連性を把握できるように、3 つのスキル（アカデミックスキル、ソーシャルスキル、スチューデントスキル）について担当者間での連携をとるようにする。また、実施回について、15 回通して繋がっていることが伝わるように組み換えの検討を行う。最終回のワークシート作成だけでなく、途中の回でも、授業の関連性がどこまで把握できているのか、課題の提出を行い、早い段階でのフィードバックを行う。

社会人基礎に関する授業を現在の選択から次年度から必修にして全員に学ばせる。役立ったものとして、グループワーク、プレゼンテーションとあった。

講義科目に関して、グループワークや発表、ディスカッション等を必ず取り入れて欲しいと思うとの回答があったので、既に実施している授業は継続して取り入れる。グループワークの取り組みによって、コミュニケーション能力等も身に付けていけると考えられるので、「服飾造形基礎Ⅱ」（モードテクノロジー系）では、製作に入る前にリサーチ課題において、グループワークを取り入れ結果分析し、プレゼンテーションを行う。語学力の向上に関しては、日常生活で起こり得る場面を想定したコミュニケーションの練習（接客時に必要なやりとり等）を積極的に行うようにする。また、オンライン上の辞書や翻訳ツールの使い方を習得し、それらを活用しながら自力で積極的にコミュニケーションを行う力を身に付けられるようにツールの説明および実践練習を行う。

クリエーション作業をする上で、非常に役立つと思うので必修にとの回答があった、illustrator、photoshop　の知識については、初年次では、必修科目である「情報演習Ⅱ」（学修ポートフォリオを含む）で既に課題に取り組んでいる。継続して、授業での取り組みを行う。

素材に関することの学びについての回答については、「服飾造形基礎Ⅰ」「服飾造形基礎Ⅱ」で、授業内容に追加、製作課題での使用素材について自ら調べることを実施することで改善していく。

教養科目の少なさに関する指摘等については、現在、初年次教育課程連絡委員会で検討中であるため、改善が可能と考える。

卒業生の回答では、専門での科目に関するものが多いが、初年次の科目として、取り入れられることがないか、各担当者へ検討を依頼する。

服飾学科　モードクリエーションコース

文責　主任　北折　貴子
安部智子・中村枝里子・設水彩加
記入年月日 2023 年 9 月 13 日

意見１：受けたかった科目や授業内容についての意見：当時はあまり外部やアパレル企業の方と一緒に行う授業がなかったので、企業の方と様々な現状のリアルに触れながら行う授業が欲しい。
改善案：今年度モードクリエーションコース 2～4 年生が実施しているデザイナー養成特別強化ゼミではアパレル業界で活躍している卒業生を講師に招いて一緒にデザインについて学んでいる。このような講座を継続的に実施することで、視野を広げていく。

意見２：アパレル企画の関係に就職した人は商品を企画するうえで必ず気にしなければいけない事項なので、テキスタイルデザインコースだけでなく、それ以外のコースの生徒もカケンへの見学が必要。
現状・改善案：アパレル業界で仕事をしている人からも一般社団法人カケンテストセンター見学を進められたことがあるので、アパレル業界として必要な知識は積極的に取り入れるため時期や参加学年などを検討する。

意見３：社会人基礎が選択になっていたが、必修にするべきだと思う。早いうちから社会人のふるまいを知っていたら、就活で最初に躓き就活自体が億劫になってしまう人も減るのではないか。私も含め、他大学に比べ杉野の生徒はそういった基礎の部分が欠けており就活で苦労しているひとも多かった印象がある。就活ではアパレル業界を志していてもライバルは専門的でない一般大学の生徒のほうが多かったので、そこの部分への教育的なアプローチも必要だと思う。
改善案：確かに本学の学生は社会人基礎のような一般常識に疎い学生が多いので、社会人基礎の授業の中で就職対策講座内容を取り入れ、全学生対象の必修とする。

意見 4：授業科目の内容として不足していて具体的に授業を受けたかった科目や授業内容についての意見：襟、袖口、ポケットなど様々な種類があるパーツの部分縫いをして種類ごとの縫い方を学ぶ内容を取り入れて欲しい。（例ポケット:箱ポケット、両玉縁ポケット、スラッシュポケットの部分縫いなど）
改善案：すぐに内容変更は難しいが、様々な種類の部分縫いなどは、縫製の教科書と実物が一致できるようにすることでデザインの幅や縫製の理解などに繋がると考えるため、サンプルでの説明など必要なものを検討していきたい。

服飾学科　インダストリアルパターンコース

文責　主任　住野雅子

記入年月日　2023 年　9 月　12 日

企業の方との対話を増やし、SNS の指導もしておくと将来に役に立つという意見があった。そのため、専門知識として Illustrator のリテラシーを増やす。CAD のリテラシーや部分縫い縫製に関しては、充実しているが、授業で動画が見られるようにしていく。

対象科目

■感性産業デザインⅠ・Ⅱ（大 2）演習

資料や教材を充実させる。朝からの授業が理由で遅刻や欠席等を解決する為に、授業の録画に取り組む。

■CAD＆3 演習Ⅰ・Ⅱ（大 3）演習

産学連携を継続している科目である。卒業生（事業主）を授業で紹介していくことによって、企業と出会いを増やす。

■感性産業 CADⅠ・Ⅱ（大 3）演習

ハンガーイラストや縫製仕様書の図の作成に Illustrator を使用する。

服飾学科　テキスタイルデザインコース

文責　主任　田口雅子

記入年月日　2023 年 9 月 12 日

たくさんのご意見を頂いた中から改善・強化として、まず下記を挙げます。

・Photoshop、illustrator を中心とする PC のスキルを得られるようにする

・グループワークやディスカッションを行う。主体性を身につける

・プレゼンテーション力をつける

テキスタイルデザインコースでは学外授業見学として、宿泊を伴う産地での生産現場を見学する機会や、ジャパンクリエーション、生地のテストセンターへの見学などを実施しています。実際の現場を見学する事でどのような仕事があるか、また、生地と服との関わり方を学んでいます。コロナ過の 3 年間はこれらをやむを得ず中止したものがあり、今回ご意見頂いた卒業生は産地見学を強く希望しながらも 1 度も経験できずに卒業した学年でもあります。今年度から日帰りではありますが実施を再開しました。現場を見学させていただくことは、非常に貴重な機会です。今後、学生が見学できる機会を無駄にせずに学べるよう計画し実施をしていきたいと思います。PC の授業では 2022 年度より前期を基礎とし、後期を応用とした学習方法に変更しましたので、理解をした上での操作が可能になったかと思います。業界における専門用語については複雑ではありますが学んだことが就職して必要となったときに振り返えられることが大切だと考えます。以上を踏まえ、すでに行っているものもありますが、改善・強化は下記になります。

①ノートの記録、ポートフォリオ等、再度見直し、振り返りができるようにする。

振返りができるよう強化する。

②グループワークを行う。

役割を決め実施し、協力して目的のものを作り上げる経験をする。互いの意見を尊重し進行することを経験し、成果確認と振返りをする。教員や仲間とのディスカッションを通して、他者の意見を知るとともに自分の考えをまとめ、伝える経験をする。自他の意見を理解しあい実行に移すことで個から他己へと視野を広げることを目指すと同時に、判断する機会を得ることで主体性とコミュニケーション力の向上を図る。

③プレゼンテーション力の向上

まず、自身の伝えたいことが整理できていることが重要である。今後さらにディスカッションとプレゼンテーションの機会を増やしたい。

その他、役に立った授業の中に「アパレル素材論」についてのご意見が今回もありました。専門用語が多く、学生にとって興味を持つことが難しい傾向がありますが、話題になっている製品や生地について取り入れ、実際の服に使用されている生地を触り興味を持ってもらうなど、身近に感じてもらう工夫を引き続き取り入れていきたいと思います。

服飾学科　ファッションプロダクトデザインコース

文責　主任　肉丸　美香子

記入年月日　2023 年 9 月 12 日

現在、2021 年に自身によってバッグブランド「YORDA」を立ち上げ、バッグのデザイン及び制作販売を手がけている卒業生から貴重な意見を聞くことができた。

役に立った授業内容について

・バッグのデザインから最終プレゼンテーションに至る全てのプロセスを通し学べたことは良かった。デザインへの着想や機能面、ターゲットなど一つ一つに意味を持たせ、プロセスを踏まえての学び、特に実制作における、「職人さんとの度重なる打ち合わせ」で経験できたことは現在、仕事の中でも充分に活かされていると思う。

・オリジナルの金具を制作する際に、メッキや仕上げに関する加工の知識などとても役に立った。

・デジタルデザインワークの授業はあらゆる領域においてデジタルスキルを身につけることの重要性、特に「Photoshop・Illustrator」は仕事を行っていく上で、大いに役に立っている。

コロナ禍を受けて

・EC サイトでの商品購入の増加が見込まれる。そのため市場では SNS を利用し PR 活動を行うことができるマーケティング力のある人材が求められていくことが予測されている。→現在はプロダクトでも EC サイトで販売を行っているが更にそれを活用し内容の充実を図りたい。

現在、バッグ業界では職人の高齢化と共に人材不足が問題となっている。若い人材の育成と就業意欲を喚起するよう積極的に取り組んでほしいという情報があった。毎年 1.2 名は技術職人への希望があり、「職人」の魅力が伝わるように現役の職人である卒業生を招いての授業を実施した時期があった。今後の課題としてより詳しい仕事の内容、収入面、個人事業主の場合での問題点など卒業生から直接話しを聞く機会を設けて行きたい。

服飾学科　ファッションビジネス・マネジメントコース

文責　主任　鈴木康久

記入年月日　2023 年 9 月 10 日

卒業生外部評価で抽出されたポイントを整理すると以下の項目が重視される。それらの指摘ポイントについて全体観を含めた現状と改善策を以下にまとめている。

◆全卒業生からの貴重な意見と重要と考える指摘ポイント

① 外部やアパレル起業の方と一緒に行う授業の必要性

② illustrator や Photoshop や Excel のスキルの重要

③ 役立った授業として「産学連携プロジェクト」が挙げられる

④ 座学より実践型、またグループワーク等を取り入れた実践的な授業

⑤ 現代社会や世界情勢や現代的なアパレル業界や時事問題について学べる授業

⑥ 就活で苦労している学生が多いので対応力の強化が必要

⑦ ICT 授業リテラシーの構築

◆現状把握と必要な対策へのアプローチ

上記項目について、①、③、④については本コースの強みでもあり現状に対する一定の評価として捉える事が出来る。今後は一層の授業内容のアップデイトを図り、更に要望に応えられるものとしていきたい。また②については二年次必修科目「プレゼンテーション技法」にて対応を図っているが、その上位科目として三年次受講科目の新設について 25 年度開設に向け検討を行っていく。⑥について本コースは就職に強く、一定程度の対応が図れているが、今後はより専門人材育成を視野に入れ、更に業界の求める人材像を鑑みながら強化促進に努めていきたい。⑦について本コースはコロナ禍の実施内容の新聞掲載及び論文掲出も行われておりリテラシー確保は実施している。今後についても進化する IT 技術を俯瞰しながら技術の把握に努めていきたい。⑤についてはコース特性もあり各授業にて対応性を担保しているが、より実践的な能力醸成を図っていく。具体的には「ブランドマネジメント論」授業内を通じて学修したリテラシーを活用して、学外ビジネスコンテストへのチャレンジを 24 年度より本格的に実施（23 年度一部実施済）していく。

総体的に高度な専門的能力の醸成や時代変化に即応性のある授業内容への変革を期待する意見が多く、加えて全体を通じて現場感のある授業運営の必要性を感じさせる意見が多い。これらの貴重な意見について、速やかに効果的な改善と対策を講じていきたい。また本コースの学習エリアは、変化の早いファッションビジネス分野である。従って実マーケットの変化を注視しながら、必要性と優先性、そして教育指針と教育効果を鑑みながら遅滞なく改善をはかっていきたい。

服飾学科　ファッションビジネス・流通イノベーションコース

文責　主任　五月女由紀子

記入年月日　2023年８月25日

●卒業生からの意見・全体を通して

卒業生が社会で体験した貴重な意見を拝見し、アパレル業界で必要なことで参考になる点が多かった。モノづくりという点では、CAD教育が役立っているという意見が多く、近い将来には３Dが導入されることも予想される点は参考にしていきたい。また営業や販売だけでなく、企画職でもSNSやPRのスキルが必要であることや、Adobeのillustratorや Photoshopの技術習得について本学は必修科目ではあるが、さらなるステップアップが必要だとも感じた。今回多く見られたのは、語学の習得やグローバル意識の必要性である。日本はインバウンド消費が今後大きく見込まれる中、アパレル業界もさらに外国人との接点が予想される。この点の強化は必要である。社会人意識の向上のために「社会人基礎」の必修化の提案も見られ、「キャリアプランニング」(2年学部必修）の科目も含めて、現在の就職に関する教育カリキュラムの見直しも検討の必要が感じられた。

●コース改善案

ＳＮＳの発信力強化という点においては、今年度から特別講師の先生の指導のもと、イノベーション２年の「プレゼミ」で毎月５チームのTikTokの動画配信を実施している。アパレル業界ではSNSによるPR業務は必要不可欠となっており、写真編集に加えて昨今のトレンドである動画編集も強化している。またSNSのアルゴリズムはInstagram、YouTube、TikTokとでは会社の方針が違う点や頻繁に変更がある点からも、特別講師の先生からの指導強化は続行でいきたい。SNS配信は当初は単発計画であったが、今年度前期の発信で再生回数が良かったことから、後期以降も月１回の定期配信を計画している。SNSについては、１年選択科目の「流行論」でも講義をしているため、学部全体で知識を共有し、学生の今後の知識として活用してもらえるように工夫をしたい。

産学連携でネットショップを実施している点においては、卒業生の意見からもあるように、WEB解析と同時にExcelを使ってのワークも必要だと反省をしている。Excelは１年の情報基礎（必修）で習得しているが、実用面でどのように使っていくのかは２年３年のゼミ内で強化していくことを計画していく。

グローバル意識の強化については、１年必修科目「ファッションビジネス概論」でアジアの縫製工場の写真と動画などを内容に入れてきたが、今年度より３年必修科目「グローバルマーケティング特講」もコース主任が担当となったため、難易度が高い事よりもまずは世界地理と世界情勢の把握、グローバルブランドの理解、インバウンドや越境ECなどの基本から学ぶ。さらに、コース主任の学会内でのアパレル企業の海外事業部門担当者と連携をとった研究活動の成果内容を活用して、実際にアパレル業界が海外に対してどのような方向性をもっているのかを学習していくことを今後の目標としたい。

服飾表現学科　　衣装表現専攻

文責主任　大町志津子

記入年月日　R5 年 9 月 10 日

卒業生からの意見

・デザインのプロセスやリサーチの仕方を学べたこと。

・パンツやジャケット等のアイテムや CAD などの基本的な使い方を学びたかった。

・自分で主体的に進める必要のある授業が多くあったのも良かった。

・興味ある服飾学科の選択科目が日野校舎への移動などで取れなかった。

・専攻科目ではクラスの人数が少ないので他学年と一緒に授業を受ける機会があればできたことや先輩から学べることもあったのではないかと思う。

・主体的に行動できることや分からないことをその場で解決できることや、コミュニケーションの必要性を感じる。人との仕事を円滑に進めていく上で、授業でのグループワークの経験が役立っている。

今後に向けての改善案

・様々なアイテムの知識に関しては、服飾造形が専門でない学生に対して、製図の知識やトワルの制作などを経験することで、服飾に関する知識の幅を広げていく。

・「他学年と一緒に授業を受ける機会」については昨年度のワークショップには３、４年生全員が参加し今年度後期では２、３、４年生全員の参加を予定している。また２、３年生には４年生の卒制の制作風景を折に触れて見せ、自分達が卒制にすることをより理解してもらう。また衣装着装のモデルとして２、３年生に加わってもらうことも検討していきたい。

・主体的に行動するには、日頃から自分で考え判断する力をつけることが必要だと考え、授業においては自分でリサーチを行い試作するなどより学生が主体で進める方法をとっていく。

・コミュニケーション能力を高め、自分で考える力や相手の意見に耳を傾ける力をつけるため、ディスカションをしつこくおこないフィードバックを繰り返し、意見や考えを言葉にすることをさらに強化していく。

・コミュニケーション能力やチームワークを高める方法として、２、３年生での共通のテーマでのイメージ作り・制作や卒業企画ではグループ制作を行っている。お互い話し合い、理解することで協働感を作り上げていく。また言葉だけでなくメールや LINE などのツールを使ってお互いの意思疎通を図っている。

・３年生のカリキュラムにおいては衣装関連の会社やアトリエで学外研修をするが、実社会で仕事をすることで大きな成長が伺えるため今後も引き続き力を入れていきたい。

服飾表現学科　スタイリング専攻

文責　主任　中村のん

記入年月日　2023 年 9 月 12 日

【学生からの意見】※スタイリング専攻の学生からの意見のみ書き出します。

① 今後必要と思われる授業名と内容：　世界情勢を知ることのできる、時事的な授業。アパレルと政治について学べる授業。

② 専門科目の編成について：　服飾表現学科は様々な分野を学ぶ機会があり充実に感じた。（スタイリング演習Ⅰのみ受講した VMD 専攻の学生からのスタイリングの授業に関する意見→）映画を観て感想を書くことも良いが、もっと実践の授業が増えるといいと思った。

③ 入学者受け入れに関して。どのような人材を受け入れるべきか：
主体性があり、アパレル以外についての知識を学ぶことにも前向きな人。

④ コロナ禍を受けて今後の人材に必要なこと：　広い視野を持ち、世界（社会問題、環境問題など）を考えられる人

【現状】

2000 年代に入ってからのファッション傾向の大きな特徴として、「過去のリバイバル」「従来のＴ・Ｐ・０の崩壊。ルールの自由化」に加えて「サステナブルへの意識向上。環境問題への配慮」があげられます。また、担当教師の 40 年以上にわたるスタイリストとしての経験から、現場でスタイリストに求められるのが、単にスタイリングのテクニックではなく、時代考察の知識（流行の変遷、カルチャー含む）、人間観察力（コミュニケーション含む）であると実感してきています。これらを踏まえた上で、授業では「この色とこの色が合う」といった「コーディネイトのルール」より、プロになってからこそ永続して活用できる知識や「視野の広げ方」「ものの見方」を学生たちが身に着けられることを優先した授業を行っています。スタイリング演習Ⅰのみ受講した VMD 専攻の学生からの②の意見（もっと実践の授業が増えるといい）に関しては、スタイリング演習Ⅱ、Ⅲで、リメイク、スタイリング、撮影等の実践を行っています。

【今後に向けての改善案】

ファッションとは、それ単体で成立しているものではなく、社会や政治、及び、人々のライフスタイルと連動しているということについて、授業で繰り返し伝えてきています。学生からの意見に、社会にでて、そのことをより強く実感していることがうかがわれました。今後さらに、学生たちの視野を広げ、考察力を高めるために、フィールドワークの授業や課題、意見交換する場を増やしてゆきます。また、教師自身が、社会の動きや新たな情報に敏感でいることが重要であり、随時、時代に即したテーマを学生たちに与えてゆきます。

服飾表現学科　VMD 専攻

文責　主任　中島　ゆう子

記入年月日　2023 年 9 月 10　日

① 画像設計演習→私の職場は小さい会社で、人も少なく若い人もいないため、SNS の運用や EC, HP の更新など一年目だが広告関連を任せてもらえることが多い。大学で少し illustrator や Photoshop を使えるようになっていたことで、わざわざ外注しなくてもいいような簡単な広告宣伝材料（ポスター、店舗のスライド動画、EC の画像など）は作れるため、そういった場面で少しだが会社をサポートできている実感がある。直接営業の仕事で売り上げにつながるわけではないが、今の会社では画像設計演習の授業で学んだことを自分でも意外なほど活かせる場面が多い。

改善案：ＶＭＤ専攻では、イラレとフォトショップに関してのプロの先生をお招きし、合計６コマの指導をしています。単品の板絵から、スタイリング、店舗イラスト、ポスター、店内ポップなど学生が就職後活用できるよう指導しています。

② アパレル（特にレディース）はトレンドに左右され、素材単位で流行っているものの把握が必要だと思うので、せっかく業界にいる先生がいらっしゃるので学生も流行に敏感になれるような授業も必要だと思う。

改善案：素材の知識、商品名の知識、ディテールの知識、1950 年台からのファッションの流れなどファッションの基本を指導しています。素材に関しては、とても大切なので、実物の商品を使い、ニット、カットソー、布帛、糸の番手、ゲージについて理解でき、素材の名称も言えるように指導しています。マーケットリサーチを基本に、消費者が着ていた素材名まで正確に言えるように細かく聞き込んでいます。今後の流行を踏まえどの素材が売れるのか、または衰退していくのかなど細かく学ぶ機会を作ります。

□卒業生から意見は専門性が強いので、ＶＭＤ専攻としては、上記２項目だけの改善点しか意見が述べられません。学生が卒業してから役に立つことを基本に改善点として、職場で何をしたらよいのか、本部との連携の仕方、自分の意見をしっかりと持ち、伝える力のあるプロを育成、アパレルや店舗の売上げを上げられる人材の育成、それがＶＭＤの基本だと考えます。

服飾表現学科　ショープロデュース専攻

文責　主任　田中 聖一

記入年月日　2023 年 9 月 13 日

ファッションショーとイベントの制作は、クリエイティブなスキルと組織力が必要な業務なので、学生たちにファッション業界やイベントプロデュースに関する知識と実践的なスキルを教えることは、彼らの将来のキャリアに大きな影響を与える。
ファッションショーとイベントの制作を教える際に考慮すべきポイントは以下のとおり。
ファッション業界の知識の提供: ファッション業界の歴史、トレンド、ブランド、デザイナーなどについての基本的な知識を学生に提供して学ばせる。これにより、業界全体の背景を理解し、クリエイティブなアイデアをよりコンテキストに合わせて開発できるようになる。これまでコレクションのレポートには通り一遍の感想がほとんどで、一歩進んで自分のアイデアを織り込んだ建設的なレポートを作成させる。
デザインと創造性の促進: 学生たちにファッションデザインの基本を教えるだけでなく、クリエイティブなアプローチや発想力を刺激する方法も提供する。アート、文化、自然などからインスピレーションを得て、新しいアイデアを生み出すプロセスを学ばせる。ファッション以外の知識から学ぶ重要性を教え、音楽、映画、美術等に関する考察を授業に盛り込む。
イベントプロデュースの基本: ファッションショーとイベントのプロデュースにおける基本的なステップとプロセスについて教える。予算管理、会場選定、スケジュール作成、プロモーション戦略など、イベントの成功に欠かせないスキルをより具体的に学生たちに伝える。
チームワークとコラボレーション: ファッションショーとイベントの制作は多くの人々との協力が必要であるから、学生たちに効果的なチームワークとコミュニケーションスキルを育む機会を提供し、現実のプロジェクトに向けた準備を学ばせる。
授業中のショーの制作はそのままチームワークとコミュニケーションスキルを身につけることから自主性や協調性をより強化したものにしていく。
技術とデジタルツールの活用: イベント制作にはデジタルツールやソフトウェアが欠かせないので、CAD ソフト、プレゼンテーションツール、プロジェクト管理ツールなどの使用方法を１年次２年次から学び、学生たちが効率的に作業できるようにサポートする。
実践的なプロジェクト: 理論だけでなく、実際のプロジェクトに取り組む機会を提供して実践的な経験を積ませることが重要なので、学生たちが自分でイベントを計画し、実際に運営する体験を通じて、リアルな課題に対処する力を養うことが必要になる。
ショープロデュースとしては大学祭が一番の機会かと思われるので映像・メディアクラスとのコラボでより具体的なショーが制作できたら実践的なプロジェクトに繋がる。

これらのポイントを考慮しながら、学生たちにもっとファッションショーとイベント制作の魅力を伝え、彼らが業界で成功するための強力な基盤を築きたい。

服飾表現学科　映像・メディア専攻

文責　主任　角倉　典彦

記入年月日　2023 年 9 月 13 日

担当講義:　1 年前期　服飾表現概論

担当演習:　2 年前期　服飾表現演習　映像・メディア表現 3 回

2 年後期　映像・メディア表現Ⅰ

3 年前期　映像・メディア表現Ⅱ

3 年後期　映像・メディア表現Ⅲ

4 年前期　卒業制作企画(映像・メディア表現)

4 年後期　卒業制作(映像・メディア表現)

担当している授業に言及した評価はなかったが、卒業生の求める教育に対しての幾つかのキーワードが見られた。それは「コミュニケーション能力」、「業界や世界情勢(社会問題、環境問題など)」、「PR 業務」である。

小生が担当する「服飾表現概論」では、作年度からサステナブルとファッションに関連した講義を行っているが、来年度のシラバスには、「サステナブルファッションとは」及び「政治経済/社会情勢とファッションの繋がり」を記載して講義を行いたい。

また担当する演習に際しても、上記キーワードを意識した指導を行いたい。

入試広報課

文責　　柴田　弘子

記入年月日　2023 年 9 月 13 日

入学者受け入れについて

卒業生から以下の通り様々なご意見をいただきました。

・将来服に関係した職に就きたいと強く思っている人、制作すること自体が好きな人。

・自分で考え、すぐに行動できる人材。

・服が好き尚且つビジネスがしたい。積極性を持った人材。

・バッグ業界では、職人の高齢化が問題になっている。業界のためにも職人を目指す若い人材を積極に受け入れて欲しい。

・個性が強すぎる人達ばかりでなく、柔軟にたくさんの事を吸収できる人材。

・ファッションが好きなことが第一で、その上で忍耐力や根気強さが必要。

・将来の目標が明確な人ほど授業への姿勢や課題に取り組む際のモチベーションが高いと思うので、大学卒業後にやりたいことや目標が明確な人を受け入れるべき。

・主体性があり、アパレル以外についての知識を学ぶことにも前向きな人。

多くの方の意見として、服が好き、ファッションが好き、その上で積極性、行動力がある、忍耐力のある人と回答頂いています。

在学時代と卒業後実社会に出て社会人としての経験を重ねたうえでの客観的なご意見と思います。

本学としましても、卒業生からのご意見と同様に、本学が求める人材として、本学の入学者受け入れの方針は、「学部の教育内容に強い関心と学習意欲をもっている人」「優れた創造性や豊かな個性をもっている人」「自己の認識や表現ができ、自己実現への意欲が高い人」としています。上記の資質を見極めるための方策として、毎年、選抜試験内での、課題や面接時の質問、口頭試問の内容等について入試委員会で検討改善を行っています。2024 年度入試も新たな総合選抜を追加しました。方策のご意見として、「入学時の評定平均値を少し高くする、或いは服が好きな人、服で夢を叶えたい人が集まるという一般的な服飾学校のぼやけたイメージとは異なる募集の仕方をする」等やや辛辣なご意見もありました。ただ、入学時の評定平均値が高くても、ものづくり、或いはファッションが好き、夢を叶えたいその気持ちが根底にないと、学ぶ意欲に繋がらないと思っています。たとえぼやけたイメージであってもそれを入学後に学んでいく過程で成長させることが、大学の教育力と考えています。

今後も、服が好き、ファッションが好きな学生を一人でも多く受け入れ、入学後の成長に繋げ自己実現をできる人材を社会に送り出せるように努力したいと思います。